

**八戸** 2～3月にスペインへ短期留学した、八戸学院大女子サッカー部の4選手が4日、八戸市のデーリー東北新聞社を訪れた。荒瀬潔社長らにサッカーの本場で学んだ経験を報告した。(田沢奈々)

## 八学大女子サッカー部4選手 スペイン留学を報告



# 本場での経験 今後

## 1カ月 現地チームと練習

留学中のエピソードを語る(左から) 橋本菜菜さん、高嶋早奈恵さん、妻神和さん、田中美貴さん

今回留学したのは、橋本菜菜さん(21)と3年、高嶋早奈恵さん(19)と2年、田中美貴さん(19)と1年、妻神和さん(19)と1年の4人。このほか、松山政義学長補佐とサッカー部の畑中孝太監督、橋本菜摘主将(21)と3年が訪れた。

高嶋さんはスペイン人との練習に「とにかく体が大きい選手が多かった。ボールが日本より軽くて軟らかいので、対応に苦労した」と日本との差を感じ取った様子。指導者としての将来を思い描く田中さん、妻神さんは「目的やプランをしっかりと持って、実のある練習をしていた」と感心していた。

同部は昨年、創部2年目で初の全日本大学女子サッカー選手権大会(インカレ)出場を果たした。橋本菜摘さんは「今季はインカレで16強を目指す」、橋本菜摘主将は「地域の皆さんの期待に応えられるように頑張る」と決意を新たにしていた。荒瀬社長は「今回の留学は貴重な経験で、一生の財産になる。学んだことをチームの皆さんに伝えて」と激励した。